

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 ：一般国道6号 常磐バイパス 起終点 ：自：福島県いわき市勿来町四沢 至：福島県いわき市平下神谷	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 東北地方整備局 延長 ：27.7km
事業概要 ：国道6号は、東京を起点とし、土浦、水戸、いわきの各市を経て仙台に至る総延長427kmの主要幹線道路で、浜通り地方の産業・経済・文化の交流を支える幹線道路である。 常磐バイパスは、国道6号における交通混雑の解消、安全な交通の確保、港湾・観光地アクセス及び緊急医療サービスの向上等を目的とする道路である。		
S41年度事業化 S50年度都市計画決定 S43年度用地着手 S44年度工事着手		
全体事業費 ：1,040億円 事業進捗率 ：87% 供用済延長 ：27.7km		
計画交通量 ：30,100台/日		
費用対効果分析結果	B/C ：(事業全体) 1.4 (残事業) 4.1 総費用 ：(残事業)/事業全体 123/2,280億円 (事業費：103/2,233億円 維持管理費：19/47億円) 総便益 ：(残事業)/事業全体 504/3,127億円 (走行時間短縮便益：459/2,715億円 走行経費減少便益：20/240億円 交通事故減少便益：24/172億円)	基準年 ：平成20年度
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 【残事業】 交通量変動：B/C=4.5(交通量 +10%) B/C=3.7(交通量 -10%) 事業費変動：B/C=3.8(事業費 +10%) B/C=4.5(事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=3.6(事業期間 +20%) B/C=4.5(事業期間 -20%)		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（6号バイパスの交通混雑の解消が見込まれる） ・物流効率化の支援（重要港湾小名浜港へのアクセス向上が見込まれる）他15項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 常磐バイパスは、交通渋滞の緩和、安全な交通の確保、港湾・観光地アクセス及び緊急医療サービスの向上等に重要な役割を果たすことが期待されており、いわき市長を会長とする一般国道6号常磐・久之浜バイパス、一般国道49号平バイパス改築工事促進期成同盟会より早期整備の要望（平成20年10月27日）を受け付けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率は87%であり、現在、調査設計及び工事を推進している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業進捗に係る問題はなく、継続して4車線化の事業を推進中である。		
施設の構造や工法の変更等 再生資材の活用、鋼狭小箱桁を採用することによるコスト縮減を図る。		
対応方針 ：事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。